

## 2019年度 第2回 ランチタイムフリートーク 報告書

1. 主 催 外国語学部
2. 講 師 名 谷 洋之 教授 (外国語学部イスパニア語学科)
3. 日 時 2019年5月28日(火) 12時45分～13時20分
4. 場 所 2-915 (英語学科会議室)
5. 出 席 者 14名  
(出席者詳細は別紙)

### 6. 内 容

#### ・ラテンアメリカ諸国の対中国貿易

ラテンアメリカ諸国、特に南米諸国は、食糧や原材料など第一次産品を中国に輸出することによって、貿易利益をあげている。また天然資源の輸出は国営企業等を通じてそのまま財政収入になることもあり、それを原資とした社会政策の拡充は、厚みを増した新中間層の消費需要を刺激し、2000年以降の経済成長に大きく寄与した。その意味で、中国の高度成長は、ラテンアメリカに経済的な利益を与えたといえることができる。だが同時にラテンアメリカ諸国が再び第一次産品の輸出国に戻ってしまうのかという不安もある。19世紀の後半から20世紀の半ばまで、ラテンアメリカの国々は、ヨーロッパへの第一次産品輸出に経済的に依存していたが、1930年代以降の積極的な工業化によって、こうした状況を脱却しようとした。中国への第一次産品の輸出増加は、新たな従属状態へとつながるのではないかという危惧を生み出している。こうした危惧に対する批判として、第一次産品の価格が比較的高いことや、中国が輸出する工業製品の価格が激しい競争により下落傾向にあること、そして、依然としてラテンアメリカ域内の大国では製造業部門が健在であることが挙げられている。しかしながら、こうした批判に対して、2010年代半ば以降さらに第一次産品の価格が低下していることやラテンアメリカ諸国の製造業が「マキラドーラ化」していることなどを指摘する再批判もあり、ラテンアメリカの対中貿易をめぐる評価は、それを見る立場や利害を反映する部分もあり、積極的なものと消極的なものが併存しているのが現状である。

#### ・対中貿易関係におけるメキシコの独特な位置

ブラジル、チリ、ペルー等は、中国との貿易において大豆や鉄鉱石などの第一次産品の大量

輸出によって多大な利益を得ている。それに対しメキシコでは、機械類、輸送機器（自動車とその部品など）が主要な輸出品である。そして中国からの一方的な輸入（「第一次産品輸出無き垂直貿易」）がメキシコの対中貿易における特徴である。

・NAFTA 内価値連鎖の崩壊

2001年に中国がWTOに加入したことで、NAFTAの国々も中国から低い関税で物品を輸入できるようになった。中国からの輸入が増大したことにより、NAFTA内の内的価値連鎖は崩壊しつつある。こうした中国の貿易における影響力の増大を危惧し、価値連鎖の一層の「北米化」を目指して、NAFTA再交渉が行われ、改訂NAFTA（USMCA）は現在、批准の手続きに入りつつある。

・メキシコにとってのNAFTAのメリットとデメリット

外国からの投資と輸出が増大し、新たな雇用も生まれたことがメリットとして挙げることができる。しかしながら、輸出のアメリカ偏重が進んだことや、労働者の賃金の低下はデメリットとして挙げることができる。

・中国はメキシコに良い投資をもたらさうのか？ /中国はメキシコにとって良き市場になりうるか？

改訂NAFTAによって「北米化」の深化が進み、投資の面で中国が存在感を増す余地は少ないといえる。輸出についてメキシコは、付加価値の高い生鮮食品の出荷を試みている。また設備やGAP、その他の認証制度の充実化は、より高品質な生鮮食品の生産に寄与している。例えば、メキシコはアメリカに一年中鮮度の高い野菜を出荷しており、もはやメキシコなしにはアメリカの食糧事情は考えられない。中国へのアボカドの出荷量も増大しており、品質の高い生鮮食品を出荷する傾向は今後も続くように思われる。

【フリートーク】

A先生：どのようにご自身の研究と学生指導をリンクさせているのでしょうか。

→ ラ米経済特論などの授業では、今日のようなテーマを扱うことがあります。また学生に実際に統計データを集めてそれを分析してもらい、結果をレポートにまとめてもらったりもしています。

B先生：何故NAFTAの価値連鎖が崩壊したのでしょうか。

→ WTOに中国が加入したことでNAFTA内の関税を差し引いたとしても、中国から安い品物が入ってくるようになったことが、NAFTAの価値連鎖の崩壊につながったのだろうと推測されます。

【司会：A先生のコメント】

昨今、米中の貿易摩擦がクローズアップされる中であって、米国や他のラ米諸国のケースと比較しつつ、メキシコの対中貿易の現状と今後の展望について詳細かつ分かりやすくご

報告いただいた。それと同時に、リアルタイムで進行している事象に対する研究成果を講義や演習の場でいかにして学生と共有し、その関心を喚起していくかという課題についての、すぐれた事例を提示していただいたという意味においても、有意義なトークであった。

以 上